

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-117022
 (43)Date of publication of application : 14.05.1996

(51)Int.Cl.

A45D 40/00
 A45D 40/06

(21)Application number : 06-258271

(71)Applicant : YOSHINO KOGYOSHO CO LTD

(22)Date of filing : 24.10.1994

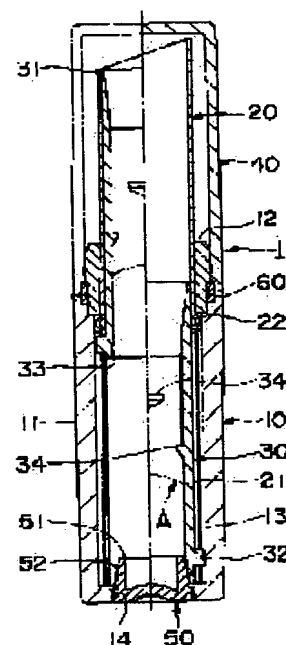
(72)Inventor : TSUNODA YOSHIYUKI
 TAMURA MASARU
 KIUCHI TOSHIAKI

(54) EXTENSION CONTAINER OF STICK COSMETICS

(57)Abstract:

PURPOSE: To retain the holder of an extension container of stick cosmetics in the lower limit position and prevent the volatile components of the stick cosmetics from volatilizing.

CONSTITUTION: A fixing protrusion 32 of the holder 30 is inserted in a long hole 21 of the inner cylinder 20 and fitted in a spiral groove 13 of the outer cylinder 10 to convert the relative rotation of the outer cylinder 10 and the inner cylinder 20 into the linear motion of the holder 30. When the holder 30 is positioned at the lower limit point, the fixing protrusion of holder 30 is engaged with the fixing protrusion 52 of the bottom cover 50 in a sealed state to stop moving up of the holder. When the cover cylinder 40 is fitted to the outer cylinder 10, the seal member 60 fixed to the upper part of the outer cylinder 10 is closely pushed to contact the lower inside face of the cover cylinder 40 in a sealed state.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 28.06.2001
 [Date of sending the examiner's decision of rejection] 06.07.2004
 [Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]
 [Date of final disposal for application]
 [Patent number]
 [Date of registration]
 [Number of appeal against examiner's decision of rejection]
 [Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]
 [Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-117022

(43) 公開日 平成8年(1996)5月14日

(51) Int.Cl.⁶

A 4 5 D 40/00
40/06

識別記号

B
Z

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平6-258271

(22) 出願日 平成6年(1994)10月24日

(71) 出願人 000006909

株式会社吉野工業所
東京都江東区大島3丁目2番6号

(72) 発明者 角田 義幸

東京都江東区大島3丁目2番6号 株式会
社吉野工業所内

(72) 発明者 田村 勝

東京都江東区大島3丁目2番6号 株式会
社吉野工業所内

(72) 発明者 木内 俊明

東京都江東区大島3丁目2番6号 株式会
社吉野工業所内

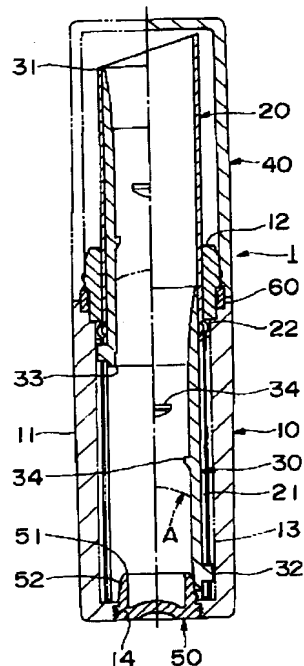
(74) 代理人 弁理士 遠山 勉 (外3名)

(54) 【発明の名称】 棒状化粧料繰出容器

(57) 【要約】

【目的】 棒状化粧料繰出容器のホルダを下限位置に保持できるようにし、又、棒状化粧料から揮発性成分が揮発するのを防止する。

【構成】 ホルダ30の係合突起32を内筒20の長孔21に貫通し、外筒10の螺旋溝13に係合して、外筒10と内筒20との相対回転をホルダ30の直線運動に変換する。ホルダ30を下限位置にした時にホルダ30の係合突部33が底蓋50の係合突部52にシール状態に掛止し、ホルダ30の上昇を阻止する。蓋筒40を外筒10に嵌着した時に、外筒10の上部に固定したシール部材60が蓋筒40の下部内面にシール状態に密接する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 (イ) 両端部を開口させた円筒状の外筒と、(ロ) 両端部を開口させた円筒状をなし、先部を前記外筒から突出させて外筒の内部に取り付けられ、外筒に対して軸線方向に移動不能で且つ周方向に回動可能にされた内筒と、(ハ) 両端部を開口させた円筒状をなし、内部に棒状化粧料の基部を収容してこれを保持し、前記内筒の内部に挿入されて内筒に対して軸線方向に移動可能で周方向に回動不能に取り付けられたホルダと、

(ニ) 前記外筒とホルダとの間に設けられ、前記内筒に対する外筒の回転運動を内筒に対するホルダの軸線方向直線運動に変換する変換機構と、(ホ) 前記外筒の基端に固定されて基部側開口を閉塞する底蓋と、(ヘ) 前記外筒に嵌脱可能で嵌着時に前記内筒の露出部を包囲する蓋筒、とを備えた棒状化粧料繰出容器において、前記底蓋とホルダには、ホルダを前記内筒の基部側限界位置まで引っ込めた時に互いに係合してホルダの軸線方向移動を阻止する係合部が設けられ、前記外筒と蓋筒のいずれか一方には蓋筒を外筒に嵌着した時に外筒と蓋筒との間をシールするシール部材が取り付けられていることを特徴とする棒状化粧料繰出容器。

【請求項2】 請求項1に記載の棒状化粧料繰出容器において、前記変換機構が、前記外筒の内周面に設けられた螺旋溝と、前記内筒に設けられた軸線方向に延びる長孔と、前記ホルダに設けられ前記内筒の長孔を貫通して前記外筒の螺旋溝に係合する係合突起、とから構成されていることを特徴とする棒状化粧料繰出容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は口紅等の棒状化粧料用の繰出容器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 この種の繰出容器は、外筒を内筒に対して回転すると、棒状化粧料を保持したホルダが内筒内を昇降して、棒状化粧料が内筒から突没するようになっていて、使用しない時には外筒に蓋筒を装着して内筒を包囲するようにしている。

【0003】 又、揮発性成分を含んだ棒状化粧料の場合には、内筒の上部開口から揮発性成分が揮発しないように、蓋筒を装着した時に蓋筒と内筒との間をシールするシール機構を設けている。

【0004】 ところで、棒状化粧料を繰出容器にセットする際に、組み立てられた繰出容器の下方からホルダ及び内筒内に棒状化粧料を流し込んで固化する方法がある。

【0005】 この場合の繰出容器は、外筒の下部が開口しており、内筒及びホルダが上下を開口させた中空円筒状になっている。そして、棒状化粧料を流し込む前に、ホルダを最大限に引っ込めた状態、即ち下限位置にして、内筒の先端に充填用の仮キャップを装着し、繰出容

器を倒立して外筒の下部からホルダ及び内筒内に棒状化粧料を充填し、充填固化後に外筒の下部開口を塞いでいる。

【0006】 一般に、製造段階においては、繰出容器を製造する場所と、その繰出容器に棒状化粧料を充填する場所とが離れていることが多い。

【0007】 そこで、繰出容器の製造元から棒状化粧料を充填する場所へ繰出容器を出荷する時には一般に、棒状化粧料充填時の手間を省くために、ホルダを下限位置にして出荷している。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、繰出容器の外筒と内筒は自由に相対回転可能な状態になっているので、棒状化粧料を充填するまでの輸送中や取り扱い中に、ホルダが上昇してしまう場合がある。

【0009】 したがって、現実には、棒状化粧料を充填する直前にホルダが下限位置に位置しているか否かを確認し、下限位置に位置していない場合には下限位置に位置するように操作する必要がある、手間が掛かった。

【0010】 又、棒状化粧料を充填固化した後においては、ホルダの下部が開放された構造になっているため、ホルダの下部から棒状化粧料の揮発性成分が揮発するという問題もあった。

【0011】 一方、使用者が繰出容器を携帯する時にホルダが内筒に対して昇降可能になっていると、棒状化粧料の先端が蓋筒の頂部に突き当たるといった不具合が生じる。

【0012】 本発明はこのような従来の技術の問題点を鑑みてなされたものであり、外筒の下部から棒状化粧料を充填するようにした構造の棒状化粧料繰出容器において、ホルダを内筒の基部側限界位置において移動不能に保持することができ、且つ、棒状化粧料の揮発を防止できるようにした棒状化粧料繰出容器を提供することを目的とする。

【0013】

【課題を解決するための手段】 本発明は前記課題を解決するために、以下の手段を採用した。

〈本発明の要旨〉 本発明は、(イ) 両端部を開口させた円筒状の外筒と、(ロ) 両端部を開口させた円筒状をなし、先部を前記外筒から突出させて外筒の内部に取り付けられ、外筒に対して軸線方向に移動不能で且つ周方向に回動可能にされた内筒と、(ハ) 両端部を開口させた円筒状をなし、内部に棒状化粧料の基部を収容してこれを保持し、前記内筒の内部に挿入されて内筒に対して軸線方向に移動可能で周方向に回動不能に取り付けられたホルダと、(ニ) 前記外筒とホルダとの間に設けられ、前記内筒に対する外筒の回転運動を内筒に対するホルダの軸線方向直線運動に変換する変換機構と、(ホ) 前記外筒の基端に固定されて基部側開口を閉塞する底蓋と、(ヘ) 前記外筒に嵌脱可能で嵌着時に前記内筒の露出部

を包囲する蓋筒、とを備えた棒状化粧料繰出容器において、前記底蓋とホルダには、ホルダを前記内筒の基部側限界位置まで引っ込めた時に互いに係合してホルダの軸線方向移動を阻止する係合部が設けられ、前記外筒と蓋筒のいずれか一方には蓋筒を外筒に嵌着した時に外筒と蓋筒との間をシールするシール部材が取り付けられていることを特徴とする棒状化粧料繰出容器である（請求項1に対応）。

【0014】前記底蓋は、外筒に対して着脱可能にしてもよいし、棒状化粧料の充填後に外筒に取り外し不能に固定してもよい。

【0015】前記変換機構は、前記外筒の内周面に設けられた螺旋溝と、前記内筒に設けられた軸線方向に延びる長孔と、前記ホルダに設けられ前記内筒の長孔を貫通して前記外筒の螺旋溝に係合する係合突起、とから構成することができる（請求項2に対応）。

【0016】

【作用】

〈本発明の作用〉ホルダを前記内筒の基部側限界位置まで引っ込めると、外筒の係合部とホルダの係合部が係合して、ホルダが移動不能になる。この係合力よりも大きな力を加えない限り、ホルダを内筒の先端側に移動させることはできない。したがって、前記限界位置に位置せしめたホルダは不用意に移動することがない。

【0017】又、係合部が係合する時のクリック感によって、ホルダが前記限界位置に来たことを確認することができる。

【0018】棒状化粧料を繰出容器に充填する場合には、ホルダを基部側限界位置にし、内筒の先端を適宜の仮キャップで閉塞し、外筒から底蓋を取り外して繰出容器を倒立させ、外筒の基部側開口からホルダ及び内筒内に棒状化粧料を流し込む。

【0019】棒状化粧料を充填固化した後においては、蓋筒を外筒に装着すると、棒状化粧料は外筒と蓋筒とシール部材によって包囲された密閉空間内に収納されることとなり、棒状化粧料から揮発性成分が揮発することがない。

【0020】

【実施例】以下、本発明の実施例を図1から図7の図面に基いて説明する。

〈第1実施例〉図1は本発明の第1実施例の棒状化粧料繰出容器の縦断面図であって、図中右半分はホルダを下限位位置にした状態を示し、図中左半分はホルダを最上位まで上昇させた状態を示している。又、図2及び図3はそれぞれ要部を拡大して示す断面図である。

【0021】この棒状化粧料繰出容器1は揮発性成分を含む棒状化粧料を収納するためのものであり、樹脂製の外筒10と、金属製の内筒20と、樹脂製のホルダ30と、樹脂製の蓋筒40と、樹脂製の底蓋50と、樹脂製のシール部材60とを備えている。

【0022】外筒10は筒本体11と嵌合筒部12とからなり、この外筒10にシール部材60が固定されている。詳述すると、筒本体11は上下を開口させた略円筒状をなし、その上端内周面には階段状に2つの環状段部が設けられている。

【0023】シール部材60は弾性材で形成されていて、円環状をなし、筒本体11の上側の環状段部に挿入され、そのほぼ上半分を筒本体11の上縁から上方に突出させている。

【0024】嵌合筒部12は円筒状をなし、その下部を筒本体11の下側の環状段部に超音波溶着されて固定されている。嵌合筒部12はシール部材60の上縁部に掛止してシール部材60を上から押さえて筒本体11に固定しており、これによってシール部材60は筒本体11及び嵌合筒部12にシール状態に密接している。

【0025】嵌合筒部12においてシール部材60より上方に位置する部分の外径寸法は、シール部材60の外径寸法よりも小径にされている。

【0026】筒本体11の内周面には螺旋溝13が形成されており、筒本体11の底部にはネジ孔14が形成されている。ネジ孔14には底蓋50が螺着されており、これによって筒本体11の底部は気密状態に閉塞されている。

【0027】底蓋50は上方に起立する円筒部51を備え、円筒部51の上部外周面には外方に突出する係合突起（係合部）52が環状に形成されている。

【0028】外筒10の内側には内筒20が挿入されている。内筒20は上下を開口させた略円筒状をなし、その軸線方向のほぼ中央には断面半円弧状に外方へ突出する膨出部22が設けられている。内筒20は、膨出部22を嵌合筒部12の下側に掛止させ、先部を嵌合筒部12から上方に突出させて、外筒10に対して周方向に回転可能で且つ軸線方向へ移動不能に取り付けられている。この内筒20において膨出部22よりも下部側には、径方向に対向した位置に軸線方向へ延びる一対の長孔21が設けられている。

【0029】内筒20の内側にはホルダ30が挿入されている。ホルダ30は上下を開口させた円筒状をなし、ホルダ30の下部外周面には径方向に対向した位置に、外方へ突出する一対の係合突起32が設けられている。

【0030】係合突起32は内筒20の長孔21を貫通して外筒10の螺旋溝13に係合しており、これによって、ホルダ30は内筒20に対して軸線方向に移動可能で且つ周方向に回転不能にされている。

【0031】この実施例では、外筒10の螺旋溝13と、内筒20の長孔21と、ホルダ30の係合突起32により変換機構が構成されており、外筒10と内筒20を相対回転することによってホルダ30が内筒20内を昇降することとなる。

【0032】ホルダ30の先端外周部は若干大径のシー

ル環部 31 になっていて、このシール環部 31 は内筒 20 の内周面にシール状態に摺動するようになっている（図 2 参照）。

【0033】ホルダ 30 の内周面の上部及び中央部には、棒状化粧料の抜け防止用の複数の突起 34 が形成されており、内周面の下端部には内方に突出する係合突部（係合部）33 が環状に形成されている。この係合突部 33 は、ホルダ 30 を下限位置にした時に底蓋 50 の係合突部 52 にシール状態に掛止して、ホルダ 30 の上昇を阻止するようになっている（図 3 参照）。

【0034】又、ホルダ 30 の下縁部は所定の大きさの力が加えられた時に弾性的に拡張できるようにしており、これによって係合突部 33 は係合突部 52 を乗り越えることができるようになっている。換言すれば、ある一定の大きさに満たない力では、係合突部 33 が係合突部 52 を乗り越えられないように形成されている。

【0035】蓋筒 40 は有頂円筒状をなし、その下部内周面は外筒 10 の嵌合筒部 12 及びシール部材 60 の露出部に嵌脱可能にされている。そして、蓋筒 40 を外筒 10 に嵌着すると、内筒 20 の露出部が蓋筒 40 内に格納され、蓋筒 40 の下端面が外筒 10 の筒本体 11 の上端面に突き当たるようになっており、これと同時に、シール部材 60 の外周面が蓋筒 40 の下端内周面に弾性的に密接して、結果的に外筒 10 と蓋筒 40 との間をシールするようになっている。

【0036】次に、この繰出容器 1 の作用を説明する。繰出容器 1 をその製造場所から棒状化粧料をセットする場所まで輸送する時には、繰出容器 1 の製造場所においてホルダ 30 を下限位置に位置せしめて出荷する。このようにすれば、ホルダ 30 の下限位置ではホルダ 30 の係合突部 33 が底蓋 50 の係合突部 52 に掛止してホルダ 30 の上昇移動を阻止するので、輸送中や棒状化粧料セット前の取り扱い中に不用意にホルダ 30 が上昇することがなく、下限位置を保持することとなる。

【0037】したがって、棒状化粧料をセットする直前にホルダ 30 を下限位置に移動させる作業は全く不要であり、手間が掛からない。

【0038】又、ホルダ 30 の引き込み操作の際には、係合突部 33 が係合突部 52 を乗り越える時にクリック感があり、これによってホルダ 30 が下限位置に来了ことを確認できる。

【0039】ホルダ 30 が下限位置にある繰出容器 1 には、次のようにして棒状化粧料をセットする。即ち、蓋筒 40 を取り外し、内筒 20 の先端を適宜の仮キャップで閉塞し、底蓋 50 を外筒 10 のネジ孔 14 から取り外して、繰出容器 1 を倒立する。そして、ネジ孔 14 から内筒 20 及びホルダ 30 内に液状の棒状化粧料を図 1 において二点鎖線 A の位置まで充填し、固化せしめる。この後、前記仮キャップを取り外し、底蓋 50 をネジ孔 14 に螺着する。

【0040】棒状化粧料をセットした後においてホルダ 30 を下限位置にした場合にも、係合突部 33 と係合突部 52 とが掛止し合うことによりホルダ 30 は上昇移動を阻止されるので、ホルダ 30 を下限位置にしておけば携帯中などにおいて棒状化粧料が蓋筒 40 の頂部に突き当たること（いわゆる、天突き）はない。

【0041】又、この繰出容器 1 では、蓋筒 40 を外筒 10 に嵌着すると、その接続部分がシール部材 60 によってシールされるので、棒状化粧料は外筒 10 と蓋筒 40 とシール部材 60 とで包囲された密閉空間に格納されることとなり、棒状化粧料から揮発性成分が揮発することはない。

【0042】〈第 2 実施例〉図 4 は本発明の第 2 実施例の棒状化粧料繰出容器の縦断面図であって、図中右半分はホルダを下限位置にした状態を示し、図中左半分はホルダを最上位まで上昇させた状態を示している。

【0043】第 2 実施例の繰出容器 1 の基本構成は第 1 実施例のものと同一である。以下、第 1 実施例との相違点についてだけ説明することとし、同一態様部分については同一符号を付して説明を省略する。

【0044】図 5 は第 1 実施例と相違する部分、即ちシール部材 60 の取付部分の拡大断面図である。第 2 実施例では、嵌合筒部 12 の外周面に環状の凹部 12a が形成されていて、嵌合筒部 12 は、凹部 12a の下面を筒本体 11 の上端面に面一にして、筒本体 11 の上端の環状段部に超音波溶着され固定されている。

【0045】シール部材 60 は、嵌合筒部 12 の上方から嵌合筒部 12 の外側に嵌め込まれた後、下方に移動して凹部 12a に圧入固定されたものであり、凹部 12a にシール状態に密接している。

【0046】第 2 実施例の繰出容器 1 においても、蓋筒 40 を嵌合筒部 12 に嵌合するとシール部材 60 の外周面が蓋筒 40 の下端内周面に弾性的に密接して、結果的に外筒 10 と蓋筒 40 との間をシールするようになっている、この点は第 1 実施例と同じである。

【0047】〈第 3 実施例〉図 6 は本発明の第 3 実施例の棒状化粧料繰出容器の縦断面図であって、図中右半分はホルダを下限位置にした状態を示し、図中左半分はホルダを最上位まで上昇させた状態を示している。

【0048】第 3 実施例の繰出容器 1 の基本構成は第 1 実施例のものと同一である。以下、第 1 実施例との相違点についてだけ説明することとし、同一態様部分については同一符号を付して説明を省略する。

【0049】図 7 は第 1 実施例と相違する部分、即ちシール部材 60 の取付部分の拡大断面図である。第 3 実施例では、シール部材 60 が蓋筒 40 の下部内面に固定されており、シール部材 60 の内周面は蓋筒 40 の内周面よりも若干突出している。このシール部材 60 は蓋筒 40 を射出成形する際に、蓋筒成型用の金型に予めインサートしておき、蓋筒 40 の成形と同時に固定したもので

ある。

【0050】一方、外筒10の筒本体11の先端に超音波溶着によって固定された嵌合筒部12の先部には小径部12bが形成されていて、蓋筒40を嵌合筒部12に嵌合した時に、この小径部12bがシール部材60の内側にシール状態に圧入されるようになっている。

【0051】第3実施例の繰出容器1においては、蓋筒40を嵌合筒部12に嵌合するとシール部材60の内周面が嵌合筒部12の小径部12bの外周面に弾性的に密接し、結果的に外筒10と蓋筒40との間をシールするようになっている。

【0052】第2実施例あるいは第3実施例における前述以外の作用効果については第1実施例と同様である。即ち、繰出容器1をその製造場所から棒状化粧料をセットする場所まで輸送する時には、繰出容器1の製造場所においてホルダ30を下限位置に位置せしめて出荷する。このようにすれば、ホルダ30を下限位置に保持せしめることができ、棒状化粧料をセットする直前にホルダ30を下限位置に移動させる作業は全く不要となる。

【0053】又、ホルダ30の引き込み操作の際には、ホルダ30の係合突部33が底蓋50の係合突部52を乗り越える時にクリック感があり、これによってホルダ30が下限位置に来たことを確認できる。

【0054】棒状化粧料をセットする時には、ホルダ30を下限位置にして繰出容器1を倒立させ、外筒10のネジ孔14から棒状化粧料を充填する。

【0055】棒状化粧料をセットした後においてホルダ30を下限位置にした場合にも、係合突部33と係合突部52とが掛止し合うことによりホルダ30は上昇移動を阻止されるので、ホルダ30を下限位置にしておけば携帯中などにおいて棒状化粧料が蓋筒40の頂部に突き当たること（いわゆる、天突き）はない。

【0056】又、蓋筒40を外筒10に嵌着すると、その接続部分がシール部材60によってシールされるので、棒状化粧料は外筒10と蓋筒40とシール部材60とで包囲された密閉空間に格納されることとなり、棒状化粧料から揮発性成分が揮発することはない。

【0057】尚、前述各実施例において、外筒10及び蓋筒40は、AS（アクリロニトリル-スチレン共重合体）、ABS（アクリロニトリル-ブタジエン-スチレン）、PP（ポリプロピレン）等で形成することができ、ホルダ30は、PBT（ポリブチレンテレフタレート）、POM（ポリオキシメチレン）、PE（ポリエチレン）等で形成することができ、シール材60は、ゴ

ム、PE（ポリエチレン）、酢酸ビニル共重合体等で形成することができる。

【0058】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、ホルダを内筒の基部側限界位置に保持することができ、製造過程においては無駄な作業をなくすることができて便利であり、使用時においては棒状化粧料の蓋筒への天突きを防止することができるという優れた効果が奏される。

【0059】又、ホルダの係合部と底蓋の係合部が係合する時のクリック感によって、ホルダが基部側限界位置に来たことを確認することができるという効果もある。

【0060】更に、蓋筒を外筒に装着すると、棒状化粧料は外筒と蓋筒とシール部材によって包囲された密閉空間内に格納されるので、棒状化粧料から揮発性成分が揮発するのを防止することができるという効果もある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施例の棒状化粧料繰出容器の全体縦断面図である。

【図2】本発明の第1実施例の棒状化粧料繰出容器の内筒とホルダの摺動部分の拡大断面図である。

【図3】本発明の第1実施例の棒状化粧料繰出容器の底蓋とホルダとの係合部分の拡大断面図である。

【図4】本発明の第2実施例の棒状化粧料繰出容器の全体縦断面図である。

【図5】本発明の第2実施例の棒状化粧料繰出容器におけるシール部材の取付部分の拡大断面図である。

【図6】本発明の第3実施例の棒状化粧料繰出容器の全体縦断面図である。

【図7】本発明の第3実施例の棒状化粧料繰出容器におけるシール部材の取付部分の拡大断面図である。

【符号の説明】

1 棒状化粧料繰出容器

10 外筒

13 螺旋溝（変換機構）

20 内筒

21 長孔（変換機構）

30 ホルダ

32 係合突起（変換機構）

33 係合突部（係合部）

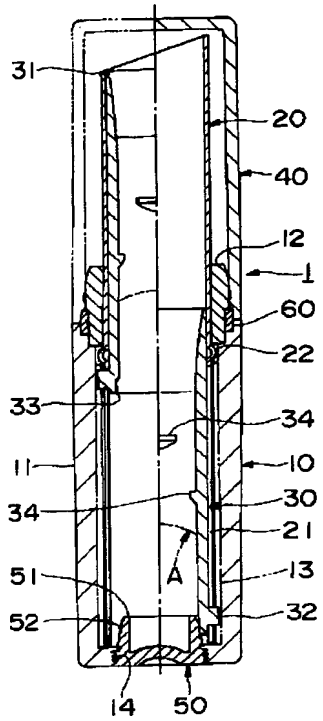
40 蓋筒

50 底蓋

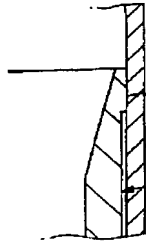
52 係合突部（係合部）

60 シール部材

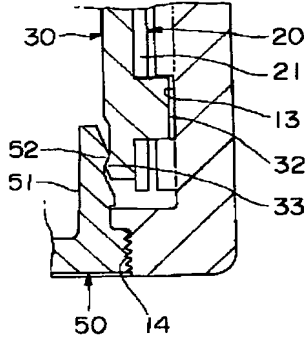
【図1】



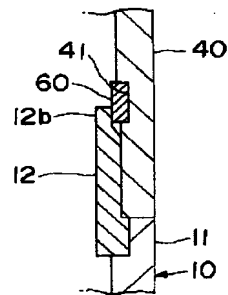
【図2】



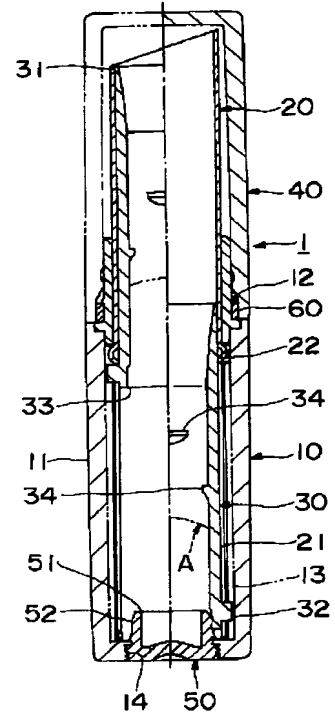
【図3】



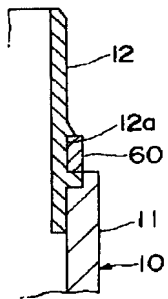
【図7】



【図4】



【図5】



【図6】

